

## 第 22 回柳瀬川・空堀川流域連絡会(第 6 期)(全体会)

日 時 平成 25 年 3 月 6 日(水)14 時 00 分～16 時 00 分

場 所 北多摩北部建設事務所 2 階第 1、第 2 会議室

出席者 都民委員 12 名  
団体委員 1 名  
行政委員 3 名  
事務局等 4 名

配布資料 ①次第  
②第 6 期柳瀬川・空堀川流域連絡会の開催状況  
③第 6 期柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告  
④空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」の設置  
⑤柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール  
⑥空堀川御成橋右岸上流部河川余地への植栽  
⑦空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」の維持管理ルール  
⑧第 21 回柳瀬川・空堀川流域連絡会 議事要旨  
⑨空堀川“いい川づくり”意見交換会  
⑩空堀川第 18 回クリーンアップ

議 題 ①報告等

- ・柳瀬川・空堀川流域連絡会の開催状況
- ・柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告
- ・空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」(現地作業)
- ・柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール
- ・空堀川御成橋右岸上流部河川余地への植栽(現地作業)
- ・空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」の維持管理ルール
- ・その他

第 21 回柳瀬川・空堀川流域連絡会(分科会)議事録  
空堀川“いい川づくり”意見交換会  
空堀川第 18 回クリーンアップ

②柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動に参加して(各委員の感想)

## 【 議事要旨 】

### ● 報告等

(事務局) それでは、定刻になりましたので、第 22 回流域連絡会を開催させて頂きたいと思います。開催に先立ちまして、資料の確認を行います。・・・(以下配布資料の確認)・・・不足があれば事務局まで申し出てください。それでは、座長お願いいたします。

(座長) まずは、第 6 期流域連絡会は、本日が最後となりました。2 年間にわたり、各委員には、お忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。これからも川を良くしていくためには、このような意見交換を行っていくことが重要と考えています。本日は、第 6 期のとりまとめと、委員の方々の感想をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、事務局から報告事項をお願いいたします。

(事務局) (次の項目について、報告を行った)

- ・柳瀬川・空堀川流域連絡会の開催状況
- ・柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告

(資料の第 22 回分の文章については、黒字に変換する。)

(前回の分科会で出た外来種に関する写真、空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」の維持管理ルールについて掲載した。)

(活動記録については、250 部印刷し、各市に 50 部ずつ配布し、各委員にも配布する。)

- ・空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」(現地作業)
- ・柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール
- ・空堀川御成橋右岸上流部河川余地への植栽(現地作業)
- ・空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」の維持管理ルール
- ・その他

第 21 回柳瀬川・空堀川流域連絡会(分科会)議事録

空堀川“いい川づくり”意見交換会

空堀川第 18 回クリーンアップ

### ● 各委員の感想

(座長) 今回、参加された各委員の感想をお聞きしたいと思います。

(都民委員) 平成 11 年から参加してきた。当初から J R 湧水の活用により、空堀川に水を循環できないかと思い、水道局等へも行ったりして、活動を行ってきた。その中で分かったことは、政策的、政治的なことがないと水が流れないことを実感した。雨水貯留だけでも難しいと感じた。今回、J R 湧水を活用したワンドが完成して、当初からの思いが一つ実現したかなと思っている。今回で委員は辞めたいと思っています。

(都民委員) 柳瀬川を中心に活動してきた。2 年間の活動の中で、各委員の知識の豊富なことに感心した。現地調査等には、行けなかったが、得難い経験となった。

(都民委員) 第 5 期からの引き続きで樹木の維持管理ルールが議論され、何とか施行されるにいった。

各市の長期計画におきましても、緑について書かれており、このルールに基づき、ずっと河川の緑を維持していただきたい。治水が一番であるが、水辺があり緑があり土地があれば、思いがけない生態系を生み出していける。

(都民委員) 現場作業等に参加できなくて、すみませんでした。河川管理用通路の緑が伐られ、雨水を貯めておく貯水池が埋め立てられて残念である。御成橋の公園の下にも、雨水を貯留できる施設があれば良かったなと感じている。ぜひ、水が流れるような空堀川にしてほしい。管理用通路には、緑がずっとあったらよいと思う。これからも参加して見守っていきたい。

(都民委員) 柳瀬川を中心に活動をしているが、私の調節池の感覚からすると、空堀川の上流の調節池は、異空間に来たような感覚を覚えた。これからこれをどうやって活用していったらよいかを考えたい。他の市における整備においても、協力できればよいと考えている。柳瀬川周辺では自生の樹木が多く、環境に配慮しながら残していきたい。柳瀬川回廊、約4キロあるが、その一部を花の回廊としていきたい。

(都民委員) 今回初めて参加した。身近な川に多様な課題があるということを感じた。参加した最初の目的は、空堀川に水を流すことであった。この2年回の中で議論されてこなかったのは、残念である。第7期に対しては、水量ではなく水流が重要で、水が流れているという実態が必要ではないか。野火止用水の話から、水が余っているということも聞いており、その水を流すという検討も必要ではないか。空堀川に水が欲しいという希望は変わっていない。

(都民委員) 今回初めて参加した。当初の思いとは裏腹に、達成感があまりない。議論を行ったが、目標が見えてこないと感じている。意見を出すそれが反映されないという思いがある。議論のテーマの本質は、水源の確保である。水源確保ができるのかなぜできないのかについて、徹底的に突き詰めて議論していきたい。次回参加できれば、この辺りをテーマとしていきたい。

(都民委員) 今回初めて参加した。新潟県の長岡市の近くに河川の大河津分水(バイパス)が整備され、それが新潟市の発展や良いコメの生産において非常に有効に作用したという事例がある。空堀川の15kmについても長い年月をかけて整備してきている。空堀川の上流には、遺跡が発掘されており、古くから人が暮らしてきた歴史があり、今日のような水の無い川にしたのは、我々である。今のままでは土木の技術者としてはまずいと感じている。洪水がなくなったが、水も憩の場もなくなったのでは困る。後世に良いものを残すという観点から、このような場で、よいものを残すために、活動を続けていきたい。

(都民委員) 第4期から参加してきた。川である以上、水がなければならぬ。参加するときに、「河川エリアはあるが河川」がないということを書いた。ワンド周辺では、水があるということで雰囲気が変わってきた。人が眺めるようになった。水流の復活に関して、地域市民と行政の協働作業が必要である。水を復活させるまで、行政においてもしっかり意識を持って対応していただきたい。市民としても、十分に対応していくことを考えている。来期も参加していきたい。

(都民委員) 勉強となったが、空堀川を良くするという点に関して、何もできなかったと感じている。空堀川の本質は、永遠のテーマとして、水量、水流が問われる。「総合治水」「水循環」というキーワードがあり、流域全体をとらえて水循環を考えていかなければならない。上流、中流、下流で川の印象は異なり、上流部では、存在感は希薄で粗末に扱われるが、下流にとっては、上流にある水が重要であり、上流から下流までが連携を取りあって協働で対応してい

くことが必要である。「空堀川」の名称を変えたいと半分本気で思っている。

(都民委員) 今回初めて参加した。柳瀬川を中心に活動をしているが、空堀川に水がないことに驚いた。これは、一自治体の対応できる問題ではない。大都会にある典型的な河川として、全国の水の無い川と連携を取りながらパワーアップして、声を大きくして対応していく必要があるのではないかと思う。川に水が流れていないことは、環境面にとっても課題である、都の環境部局も取り込んだ議論が必要ではないか。草本の維持管理ルールができたので、一般市民にも広げていく方策を検討する必要がある。

(都民委員) 第4期から参加してきた。現場に出られなかったのが残念である。草本のルールなど色々なものが実現したという実感を持っている。金山調節池での外来種の駆除については、やればできるのだなと感心した。ルール等を周知しながら、どこまで市民を巻き込んでいけるのかを考えている。今後、上流での改修工事等についても、協力していきたい。

(都民委員) 第5期からの参加である。上流部の武蔵村山市の参加が少ない。上流部においても今から参加して議論していく必要がある。今年度は成果がはっきりしていて、楽しかった。行政の方々もよく付き合っていた。河川沿いを上流に向けて自転車で走ると、ところどころに水があるが、浸み込んで無くなっているようである。河床に粘土張り等を行えば、上流の水が下流まで流れるのではないか。自転車や歩行者が歩ける通路がなくなっている部分があり、繋げることを先に行って欲しい。空堀川の個性を考えていくべきである。どういう特徴があるのか、ないのかを考えていくべきである。植栽の分科会を作ってほしい。河川沿いに植生できる余地があり、植栽の分科会で勉強していきたい。来期も委員としてやっていきたい。

(行政委員) この会では、個人としての意見ではなく、行政の立場として、行っていくことが、行政としての方針と合致しているのかどうかについて、発言を行ってきた。広く市民への説明ができるものであるかという観点から、行う事項を制御してきた。この連絡会でやりたいことが、全ての市民を代表する意見であるとは言えない面もある。緑が多いと苦情を言う市民もおり、その対応もしていかなければならない。お金があれば、今の日本の土木技術があれば、何でもできる。多くの市民に、お金を使って「こういうことをやっていく」という説明をしなければならぬ。基本的な方針と合致しているということを説明する必要がある。水がないということも一つの個性であるのではないか。水を流すことに多大な費用をかけるのか、視点を改めて水の無いことを前提に少ない費用で整備していく方法も考えられる。

(座長) 決して否定的な立場ではなく、毎日の苦情に対応する観点から、あらゆる方々に対する説明責任の中で意見を述べてきたということです。

(行政委員) 社会人1年目で代理として、参加させてもらっている。市民がどのような意見を持っているのか、川に対してそのように考えているのかが分かり、重要な意見を聞ける良い機会であった。休日等に柳瀬川、空堀川を歩いているが、市民の方々のお祭りや川遊びなど心温まる風景を見て、川に対する思いを形成していることを感じ、川を好きになってきた。行政側も川をよくしていきたいという思いで連絡会を行っており、来期以降も小さいかもしれないが、成果を求めて、意見交換を行っていければと思っている。

(座長) 事務局、お願いします。

(事務局) 事務局として参加して3年目となる。6期の2年間では、それなりに成果を残せたのではないかと感じている。委員との意見交換から実現できたものもあり、良かったなと思っています。

ます。

(座長) 私も、一昨年の8月から参加した。川はもともと好きで、溪流釣り等をやっており、大学時代には、北海道や海外まで行った経験がある。そのような経験の中で、柳瀬川は良い川だと思っている。柳瀬川下流域については、東京でもトップクラスの環境だと思っている。様々な意見を頂いて、我々だけではできない面もあり、国の懇談会等で議論されている部分もあるが、なかなか難しい。今後、空堀川については、下流から掘削がされてくるが、水の無い部分や地下水位の高い部分については、河床張りを行ったりして、水が流れるようにする。上流域については、地下水位の低い部分については、上流域に対応した対策を取っていきたいと考えている。緑についても、河川余地への植生を行っていく方向で考えている。水がどこまで回復するかは、解らないが、地元の方に喜ばれる川としていきたいと思っている。そのために、今後も一緒になって考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。それでは、本日の次第は終了ということで、事務局、お願いいたします。

(事務局) 活動報告については、郵送で各委員に送付いたします。公募の関係については、改めて連絡いたします。全体会の議事録については、都のホームページに掲載しますので、その内容についてもお送りさせていただきます。それでは、第6期柳瀬川・空堀川流域連絡ですが、本日をもって終了とさせていただきます。各委員の皆様、2年間の活動ありがとうございました。